

牛ウイルス性下痢(BVD)の 対策に取り組みましょう！



～侵入防止とPI牛の摘発・淘汰の徹底を～

牛ウイルス性下痢(BVD)とは？

牛ウイルス性下痢は、牛ウイルス性下痢ウイルス感染により、発熱、下痢、呼吸器症状等を引き起こす病気です。多くは軽症で回復しますが、後述する持続感染牛(PI牛)では消化管の粘膜が侵され、致死的な粘膜病を発症することもあります。特に注意が必要なのは、妊娠牛の感染です。流産や死産といった異常産だけでなく、PI牛が産まれることがあります。

PI牛は、一見健康に見えても、生涯にわたってウイルスを鼻汁、糞尿、乳汁などに大量に排出し続けるため、農場内の汚染源や他農場への伝播源となります。

牛ウイルス性下痢は、全国では表1のように毎年100頭以上発生し、県内でも、毎年のように発生しています。

表1 牛ウイルス性下痢発生状況

年	頭数(県内)	頭数(全国)
R 6	4	124
R 5	1	172
R 4	0	119
R 3	4	235
R 2	9	265
R 1	10	359

農林水産省HP 監視伝染病発生年報より

どのように感染するの？

ウイルスが、口腔、生殖器などの粘膜から侵入する他、感染母牛から胎盤を介して胎児への垂直感染もあります。

農場を守るために、今すぐできる対策とは？

農林水産省が示している「牛ウイルス性下痢・粘膜病に関する防疫対策ガイドライン(以下、ガイドライン)」に基づき、牛の飼養者、獣医師、家畜人工授精師、関係機関等が一体となって取り組むことが重要です。

農場への侵入防止対策として、牛を導入したら隔離し、検査を行って感染の有無を把握しましょう。さらに、導入後に生まれた子牛の検査を行うことも重要です。なお、PI牛に対する効果的な治療はありませんので、早期に摘発し自主的に淘汰することが肝要です。

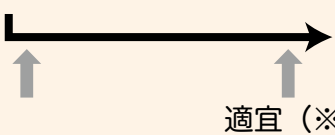
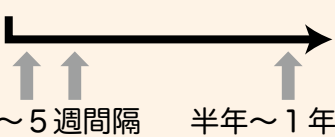
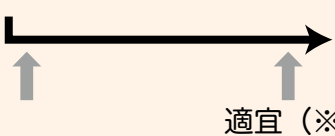
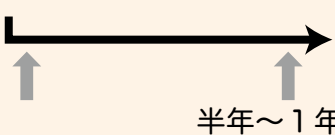
また、牛ウイルス性下痢には有効なワクチンがあります。ワクチンの接種時期及び種類に十分注意し、用法、用量を厳守して計画的に接種しましょう。



ワクチンについては裏面をご確認ください。



牛ウイルス性下痢ワクチンについて

ワクチンの種類	対象の病気		用法（接種方法）	使用上の注意
	1 型	2 型		
牛ウイルス性下痢生ワクチン	○	○		初回接種する雌牛においては、胎児への垂直感染を防止するために種付けの少なくとも3週間には接種する必要がある。
5 種混合生ワクチン	○	—		妊娠牛、交配後間がない牛又は3週間以内に種付けを予定している牛には接種しないこと。
5 種混合不活化ワクチン	○	○		—
6 種混合生ワクチン	○	○		妊娠牛、3週間以内に種付けを予定している牛、交配後妊娠の可能性のある牛には接種しないこと。
6 種混合生＋不活化ワクチン	○	○		牛ウイルス性下痢粘膜病に対して、5 か月齢以下の牛では、期待する効果が望めないことがある。

※注射の時期は、輸送及び放牧等の飼養環境の変化、市場への出荷等の時期とすること。

【資料提供・文献】

動物用ワクチン利用の手引き(牛用ワクチン編)：動物用ワクチン等保管協議会 各ワクチン使用説明書

【予防接種の相談・申込】

ワクチンの詳細や接種料金については、(一社)岡山県畜産協会各支部又は診療獣医師(NOSAI 家畜診療所、おからく生産支援課、開業獣医師)までお尋ねください。

岡山県畜産協会岡山支部（岡山家畜保健衛生所内）	TEL 086-724-3880
岡山県畜産協会井笠支部（井笠家畜保健衛生所内）	TEL 0866-84-8221
岡山県畜産協会高梁支部（高梁家畜保健衛生所内）	TEL 0866-22-2077
岡山県畜産協会津山支部（津山家畜保健衛生所内）	TEL 0868-29-0040
生産獣医療支援センター（岡山市北区建部町）	TEL 0867-22-1500
備中家畜診療所（小田郡矢掛町東三成）	TEL 0866-84-1400
備中家畜診療所備北出張所（高梁市津川町）	TEL 0866-22-2211
美作家畜診療所（鏡野町沢田）	TEL 0868-54-5081
美作家畜診療所蒜山出張所（真庭市蒜山富山根）	TEL 0867-66-2517
おからく生産支援課（津山市川崎）	TEL 0868-26-1106